

# 地域安全マップづくりに取り組んでみよう

## 「地域安全マップづくり」とは

「地域安全マップ」とは、**子どもたちが普段、生活している地域の「危険な場所」、「安全な場所」を表示した地図**です。

「地域安全マップづくり」は、1グループ5～7名程度がそれぞれ役割分担して、フィールドワーク、インタビューを行い、犯罪が起きやすい場所等を見つけ出し、それを元に「地域安全マップ」を作製する取組です。

**子どもたち自身が地域安全マップを作製することで、子どもたちの犯罪被害回避能力の向上**が期待できます。



## 「危険な場所」、「安全な場所」とはどのような場所なのか

### 入りやすい場所とは

「危険な場所」とは、「**(犯罪を考えている者が) 入りやすく、見えにくい場所**」

「安全な場所」とは、「**(犯罪を考えている者が) 入りにくく、見えやすい場所**」

- 犯罪を考えている者（犯人）と被害対象者（被害者）の間に障害物がなく、簡単に近づくことができる場所
- 犯行後、障害物がないため、すぐに逃げることができる場所
- ゴミが散乱していたり、落書き等が放置されている場所



### 見えにくい場所とは

- 死角が多いため、犯罪を行っても、誰にも見られないような場所
- 周りで起こっていることに無関心な人が多い場所（第三者がいても全く無関心なため、自由に行動ができる場所など）



### 具体的例示

- 出入口がなく、どこからでも入ることができる公園は、**入りやすい公園**です。周囲が柵等で囲われ、出入り口が限られている公園は、**入りにくい公園**です。
- 同じ公園内でも子どもが利用する空間と大人が利用できる空間が区分されていない公園は、**入りやすい公園**です。利用者が明確に区分されている公園は、**入りにくい公園**です。
- ガードレールで歩道と車道が区分されていない道路は、**入りやすい道路**です。逆に、きちんと区分されている道路は、**入りにくい道路**です。
- 歩行者が少なく、車の通行が多い道路、路上駐車が多い道路は、**入りやすい道路**です。逆に、歩行者が多い道路、路上駐車がない道路は、**入りにくい道路**です。
- 生け垣が高い、又は樹木が生い茂っていて、周囲からの見通しが悪い公園は、**見えにくい公園**です。

- 生け垣が低く、樹木等が剪定されていて、周囲からの見通しが良い公園は、**見えやすい**公園です。
- 道路の両側に高い塀などがある道路は、**見えにくい**道路です。  
周囲の住宅、店舗からの視線が確保されている道路は、**見えやすい**道路です。
- ゴミが散乱し、落書きが消されずに残っている地域は、犯罪者にとって、**心理的に入りやすい**場所です。また、そのような場所には、地域住民がなかなか近づかないため、**見えにくい**場所にもなっています。
- 見知らぬ者がいても、声をかけなかったり、無関心な地域は、犯罪者にとって、**心理的に入りやすい**場所です。誰にでも挨拶し、その地域に住む人ではない者を見かけたときに声を掛ける地域は、犯罪者にとって、**心理的に入りにくい**場所です。
- 外灯がなく、周囲の住宅の門灯も点いていないような暗い地域は、地域住民が、暗さに無関心であるため、**見えにくく、入りやすい**場所です。逆に、外灯があり、住宅の門灯が点いていて明るい地域は、地域住民が夜間の安全に関心があり、**入りにくく、見えやすい**場所となります。

## なぜ、「入りやすく、見えにくい場所」は危険なのか。

犯罪を行おうとする者は、人に見られることを、最も警戒します。

子どもに対する犯罪を例に挙げると、犯人は、簡単に子どもに近づくことができ、誰にも見られず犯行に及び、その後、すぐに逃げることができる場所を選ぶ傾向にあります。

それが、「**入りやすく、見えにくい場所**」です。

実際に、過去の事件でも、犯人は、被害者が一人になったところや誰もいない場所に移動したときを狙って、犯行に及んでいます。

## 地域安全マップづくりの効果

### ● 子どもの犯罪被害回避能力の向上

「危険な場所」、「安全な場所」の判断ができることで、安全な道を選んだり、安全な場所で遊んだりするようになります。また、どうしても、「危険な場所」を通らなければならないような場合には、そこが「危険な場所」であることを知っているため、走って通り抜けたり、用心するようになります。

### ● コミュニケーション能力の向上

フィールドワークでのインタビューや話し合いながらのマップづくりを通して、コミュニケーション能力の向上が期待できます。

### ● 地域への愛着

「地域安全マップづくり」は、通学路や遊び場など、子どもたちにとって身近な地域を調査して地図を作製します。そのため、地域の様々なことを見て、聞いて、地域に関心を持つようになり、地域への愛着心を高めることが期待できます。

### ● 少年非行の防止

防犯について考える機会を通して、犯罪行為、非行について知り、そのような行為をしないという気持ちを持つことで、少年非行防止の効果が期待できます。

### ● 地域の防犯意識の向上

子どもたちの「地域安全マップづくり」に地域の大人が協力したり、見かけたりすることで、地域の大人も防犯について考えるようになり、地域の防犯意識を高める効果が期待できます。